

3月16日福島県沖地震発生後の建物点検について

- 3月16日に福島県沖で発生した地震を受けて、福島第一原子力発電所においては、発電所内の建物について、優先順位を設けたうえで点検を実施しております。
- 地震発生直後には、建物の継続使用可否を確認することを目的に、外観目視による被災調査を実施するとともに、新事務本館・入退域管理棟など有人の建物について優先的に点検を行い、3月17日に完了しました。点検の結果、恒久対策を実施するとともに継続使用が可能であることを確認しています。
- その後、4月1日（金）より、実施計画に記載のある建物を対象に以下計画に基づき、詳細点検を開始しました。
- 今後、4月20日頃を目標に順次点検を実施する予定ですが、建物に損傷や異常が確認された場合には、詳細点検を行うとともに、修繕方法の検討を速やかに実施してまいります。

※地震発生後の点検では、2号機および5号機の冷却ポンプが停止し、使用済燃料燃料プールの冷却が一時停止したほか、一時保管エリアのコンテナの転倒や、ALPS処理水等を保管しているタンク位置「ずれ」が確認されるなど、設備への影響は確認されているものの、放射性物質の環境への漏えいや人身災害、今後のプラント運営に大きな影響を与えるものではありませんでした。

優先度	建物	対象数	完了日
優先度Ⅰ	有人建物 新事務本館・事務本館・入退域管理棟等	7棟	3月17日（木）
優先度Ⅱ	実施計画建物（鉄骨構造） 燃料取り出しカバー・ALPS建屋・大型メンテナンス建屋等	49棟	4月20日（水）頃予定
	実施計画建物（鉄筋コンクリート造） プロセス主建屋・固体廃棄物貯蔵庫等	56棟	

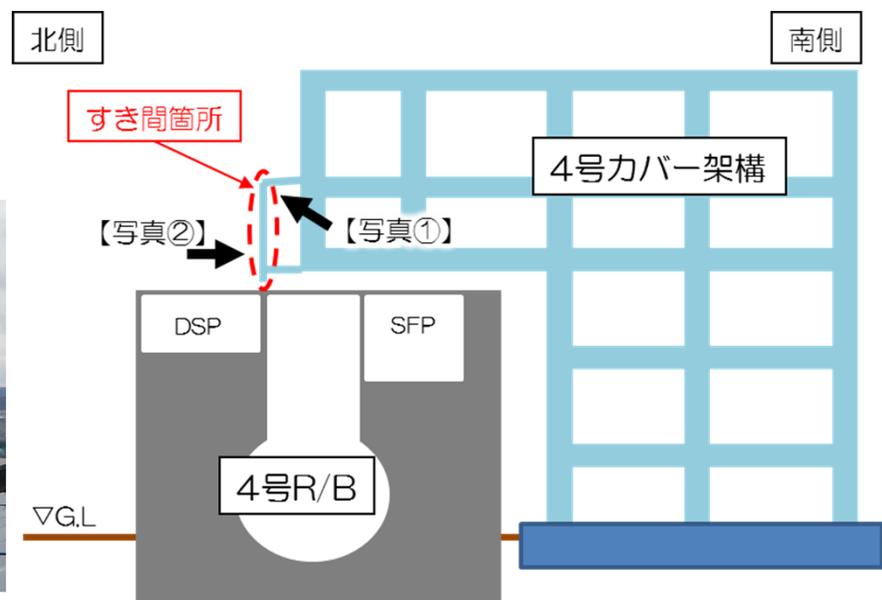
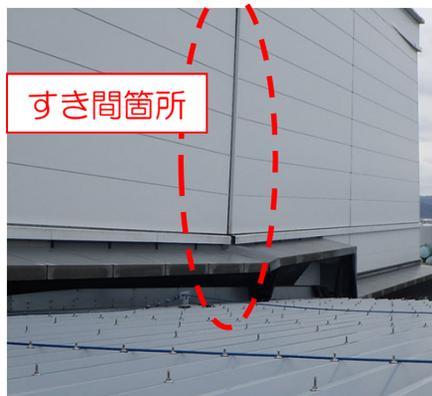
4号機燃料取り出し用カバー北側外壁のすき間の確認

- 4月1日（金）、実施計画に記載のある建物を対象に詳細点検を開始したところ、4号機燃料取り出し用カバー北側外壁にすき間を確認しました。カバー架構の耐震性に係わる主要構造部材には影響が無いことを確認しております。
- 4号機は、使用済燃料プールからすべての燃料取り出しを2014年12月に完了しており、原子燃料からのリスクはなくなっています。
- また、構内ダストモニタ等に有意な変動はなく、環境への影響がないことを確認しております。
- 今後、二次的な災害防止の観点から、カバー内部北側エリアと屋上一部の立入禁止措置を行い、その後、補修工事等を実施してまいります。

【写真①】



【写真②】



※2022/4/5（訂正前）使用済燃料燃料プール →（訂正後）使用済燃料プール
（訂正前）屋上一部 →（訂正後）屋上一部の